

JAMCA ジヤムカ ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.39

2003年10月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会
 協会事務局 〒160-0015 東京都新宿区大京町31
 ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
 編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
 ☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
 ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>



これからの
授業運営

パソコン教材の薦め

日産自動車整備専門学校校長
 全国自動車整備専門学校協会理事

児島 靖彦



文部科学省が8月に発表した「平成15年度学校基本調査(速報)」によると、今春の新規高卒者に占める専門学校への進学率は5年連続して上昇し、過去最高の18.8%を記録した。又、我々の自動車整備専門学校の在籍者数は、減少傾向の工業分野の中で最も学生数を伸ばし前年度比7.6%増の2.6万人になっており、関係諸兄の日頃のご努力の賜とご同慶の至りである。

昨今の少子化の中で学生数が増加してきているのは、それだけ我々に対する社会からの期待が強いわけで、益々、学生の満足度向上に向けた学校運営に取り組んでいく必要がある。

学生の満足度向上に係わる課題は色々であるが、ここでは、恐らくJAMCA加盟各校の共通課題であると思われる「授業内容の充実」について述べてみたい。1995年4月から、第一種養成施設における教育時間が300時間短縮され「1800時間以上」に変更されたが、それでも自動車整備専門学校の授業時間は学生にとって大変ハードであると思う。

私は周囲の学生を見ていて、これだけ密度の濃い授業を次から次へと強いているのだから、「授業中の学習意欲が足りない、とか、居眠りなんかするのはとんでもない」とか言って学生の責任にばかりにしていられない面があると思っている。人間、集中力の持続には限界がある。90分、100分の授業を最初から最後まで、興味と意欲を持っ

て又、居眠りをさせないで受けさせることの難しさ、特に学科授業が難しい。

夫々の教員が、しゃべり方、間の取り方、ジョークをはさんだりとか色々工夫を凝らして対応してくれているが、それだけでは限界がある。学生の集中力を持続させ効果的な授業運営を行うには、教員個々のノウハウだけに頼るのではなく、学校としての工夫が必要だと思う。これからの学生はキチンとしたIT教育を受け、パソコンに親しんだ学生が主体となる。従って、彼らの受け入れやすい授業方式・教材開発が不可欠となる。

以前からJAMCAニュースの「特集記事」や「私の教材活用」等で、パソコンを利用したバーチャル教材、アニメーション教材が紹介されている。既にそれらの教材を駆使し学習効果を上げられている学校もあると思うが、私は改めて、そういった教材をもっと組織的に授業に取り入れていくべきだと主張したい。

パソコンを利用した教材の狙いは、限られた時間の中で、学生と教員が一

体となって、考え・理解する時間を増やせる…板書不要、より学生参加型の授業が可能・カットモデルでは理解しにくい作動や現象等を視覚的に表現でき、又、容易に繰り返して学生に説明することが出来る・教員相互の授業内容のレベリングをとりやすい等にあり、いずれも学生の満足度向上につながるものである。

私の勤務する学校でも、パソコン教材に興味をもっている一部の教員が工夫して、エンジンやブレーキの構造・作動の他、電気回路における電圧降下、電流に関するイメージ作り等の教材を開発し、自分の授業に活用して学習効果を上げているが、いよいよ学校として組織的に対応し、パソコンの得意・不得意とか若手・ベテランの区別なく、授業のあり方を本格的に変革していくことを考えるべき時だと思っている。

これから入学してくる学生の学習効果・満足度を考えると、教員個々の授業運営ノウハウをベースとしながらも、全教員が自分自身でバーチャル教材、アニメーション教材を駆使し、授業内容を変革していくことが不可欠である。

■ CONTENTS ■

2面	OPINION
3面	我が校自慢 一級試験合格の秘訣
4・5面	合格者・先生に聞く
6面	協会トピックス
7面	活躍卒業生・地区通信
8面	私の教材活用・編集後記